

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第 6 学年の全児童、中学校第 3 学年の全生徒（悉皆調査）

3 教科に関する調査の内容

小学校：国語、算数

中学校：国語、数学、英語 ※中学校英語のみ CBT 調査で実施

4 調査日時

令和 8 年 4 月 23 日（木）

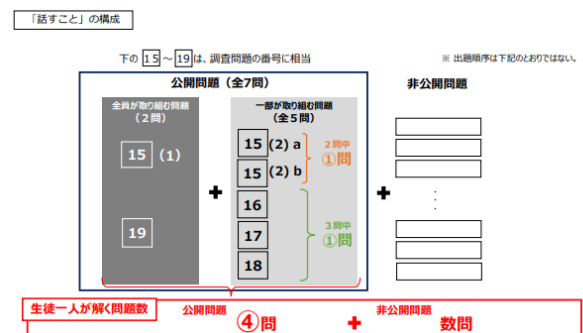
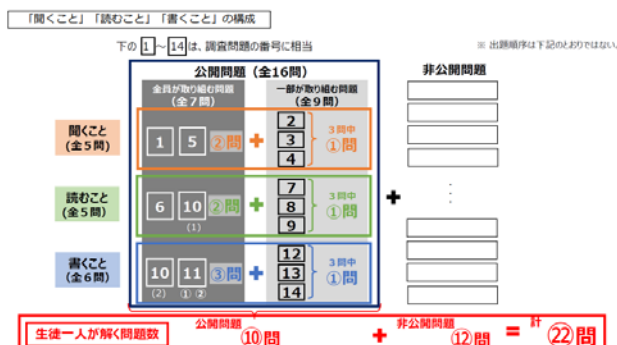
5 調査結果（平均正答数・平均正答率）

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語 3 技能
昭島市	7.8/13 問 60%	8.7/16 問 54%	9.8/15 問 66%	9.4/16 問 58%	IRT スコア 504
東京都	8.4/13 問 65%	10.1/16 問 63%	10.1/15 問 68%	9.9/16 問 62%	IRT スコア 530
全国	7.9/13 問 61.1%	9.1/16 問 56.6%	9.6/15 問 64.2%	9.2/16 問 57.4%	IRT スコア 502

C B T…（Computer Based Testing）コンピュータを使って受験する試験方式。

I R T…項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。

IRT スコア…IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。



6 各教科に関する調査結果

(1) 小学校国語

【調査結果のポイント】

<正答率が高い問題>

【話すこと・聞くこと】

- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる

(大問1一)【正答率：市 72.3% (国 73.9%)】

【書くこと】

- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる

(大問2一)【正答率：市 59.7% (国 57.9%)】

【読むこと】

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる

(大問3三(2))【正答率：市 69.1% (国 76.4%)】

<正答率が低い問題>

【話すこと・聞くこと】

- ▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる

(大問1二(1))【正答率：市 60.0% (国 60.2%)】

【書くこと】

- ▲引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

(大問2四)【正答率：市 32.4% (国 33.5%)】

【読むこと】

- ▲目的に応じて、必要な情報を見付けることができる

(大問3三(1))【正答率：市 54.8% (国 55.5%)】

【指導改善のポイント】

【話すこと・聞くこと】

- ◎聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、補足説明が必要な箇所や言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいかを考えたり、資料を提示しながら話す仕方について検討したりすることが重要である。

【書くこと】

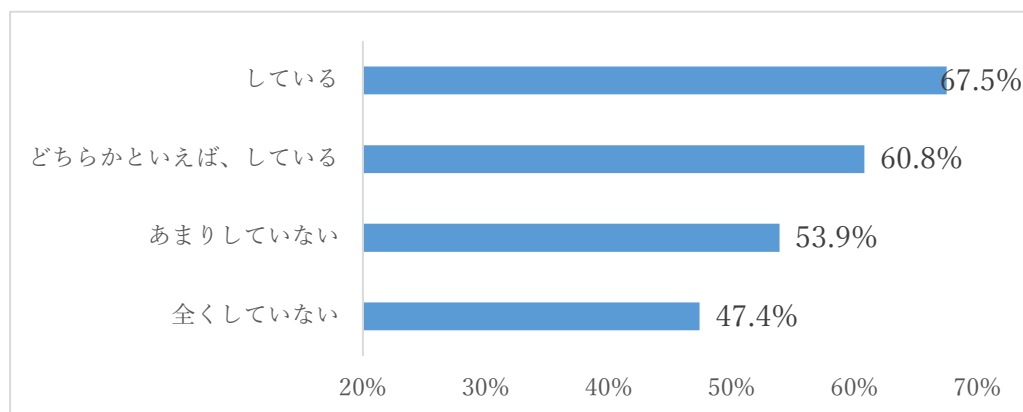
- ◎引用する目的を明確にした上で、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことが重要である。また、原文を正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことも重要である。

【読むこと】

- ◎書き手の述べたいことを知るために読む、読み手の知りたいことを調べるために読むなどの目的に応じて、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。

<クロス集計>

児童質問紙調査「国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか」の質問に対する回答と、国語の正答率とのクロス集計



★この質問に肯定的に答えた児童の方が、国語の正答率が高い。文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる指導の充実が重要であると考えられる。

(2) 小学校算数

【調査結果のポイント】

<正答率が高い問題>

【数と計算】

○小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができる

（大問3（1））【正答率：市 93.1%（国 94.5%）】

【図形】

○立方体の体積の計算による求め方について理解している

（大問1（1））【正答率：市 67.8%（国 72.7%）】

【データの活用】

○帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができる

（大問4（4））【正答率：市 72.1%（国 74.9%）】

<正答率が低い問題>

【数と計算】

▲異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できる

（大問3（3））【正答率：市 39.7%（国 44.0%）】

【変化と関係】

▲基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる

（大問2（4））【正答率：市 34.1%（国 34.2%）】

【データの活用】

▲二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる

（大問4（3））【正答率：市 16.4%（国 17.9%）】

【指導改善のポイント】

【数と計算】

◎ 分数の意味や表し方に基づいて、異分母の分数の大小を判断できるようにすることが重要である。その際、既習の幾つかの方法で分数の大小を比べることができるようにすることが大切である。

【変化と関係】

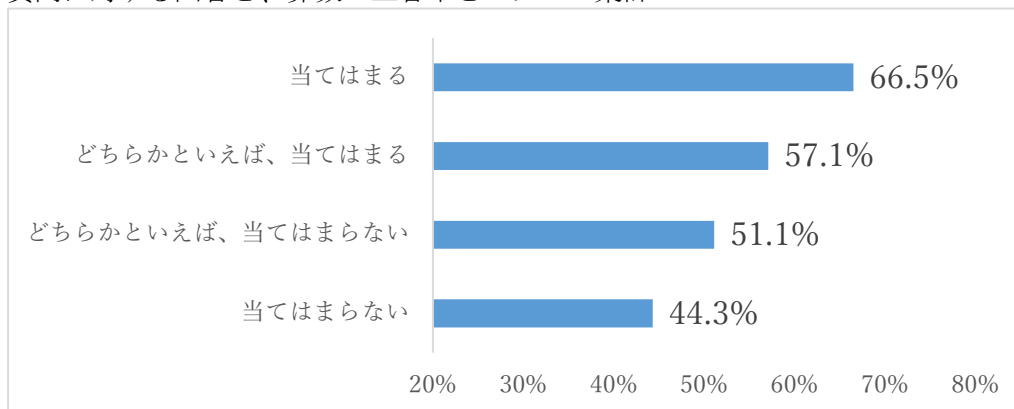
◎ 「割合」及び「単位量あたりの大きさ」の学習では、一つの数量だけでは比べることのできない場面において、関わりのある二つの数量を見だし、二つの数量の関係どうしで比べられることを理解できるようにすることが大切である。

【データの活用】

◎ 目的に応じて、統計的に解決可能な問題を設定し、観点を決めてデータを収集、分類整理し、適切な表やグラフを選んで表現したり、読み取ったりできるようにすることが大切である。

<クロス集計>

児童質問紙調査「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」の質問に対する回答と、算数の正答率とのクロス集計



★この質問に肯定的に答えた児童の方が、算数の正答率が高い。解答が求められるだけでなく、思考の過程を説明できる指導の工夫をすることが大切である。

(3) 中学校国語

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【話すこと・聞くこと】

○必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる

(大問2二)【正答率：市 73.7% (国 70.4%)】

【書くこと】

○表現の効果を考えて描写することができる

(大問3二)【正答率：市 92.0% (国 92.3%)】

【読むこと】

○文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができる

(大問4一)【正答率：市 77.4% (国 71.6%)】

＜正答率が低い問題＞

【話すこと・聞くこと】

▲互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる

(大問2四)【正答率：市 53.9% (国 52.7%)】

【書くこと】

▲表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができる

(大問3四)【正答率：市 47.9% (国 45.0%)】

【読むこと】

▲文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる

(大問4四)【正答率：市 42.0% (国 38.9%)】

【指導改善のポイント】

【話すこと・聞くこと】

◎話し合いに参加している者が、それぞれの置かれた立場や意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりすることが重要である。また、一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉える中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、話し合いが進展するように、自分の考えが伝わるような発言をすることが大切である。

【書くこと】

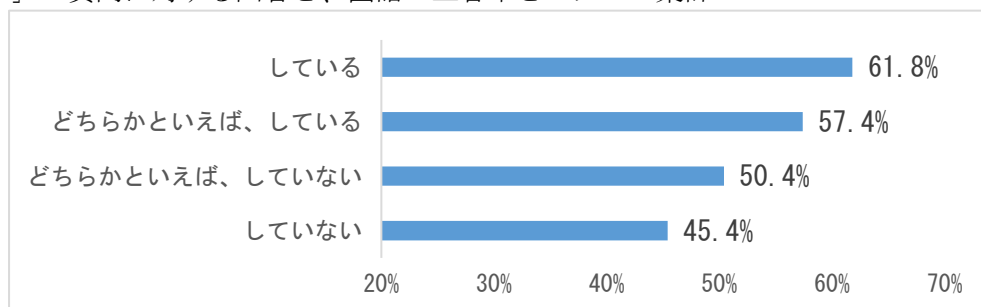
◎読み手からの感想や助言を基に、自分の文章を振り返り、書く活動にどのように生かすかを考えることが重要である。

【読むこと】

◎文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくことが大切である。

＜クロス集計＞

生徒質問紙調査「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか」の質問に対する回答と、国語の正答率とのクロス集計



国語の正答率

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、国語の正答率が高い。互いの考えを捉える中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、話し合いが進展するように自分の考えを伝えられるよう指導することが大切である。

(4) 中学校数学

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【数と式】

○具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができる

(大問 1) 【正答率：市 87.8% (国 85.7%)】

【関数】

○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる

(大問 7 (1)) 【正答率：市 76.0% (国 75.2%)】

【データの活用】

○箱ひげ図と四分位数の対応について理解している

(大問 9 (2)) 【正答率：市 77.8% (国 75.8%)】

＜正答率が低い問題＞

【図形】

▲具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができる

(大問 8 (3)) 【正答率：市 39.4% (国 37.1%)】

【関数】

▲数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

(大問 7 (2)) 【正答率：市 32.7% (国 33.9%)】

【データの活用】

▲データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができる

(大問 9 (3)) 【正答率：市 34.3% (国 31.9%)】

【指導改善のポイント】

【図形】

◎証明する事柄の仮定と結論を明らかにする場面を設定することが大切である。

【関数】

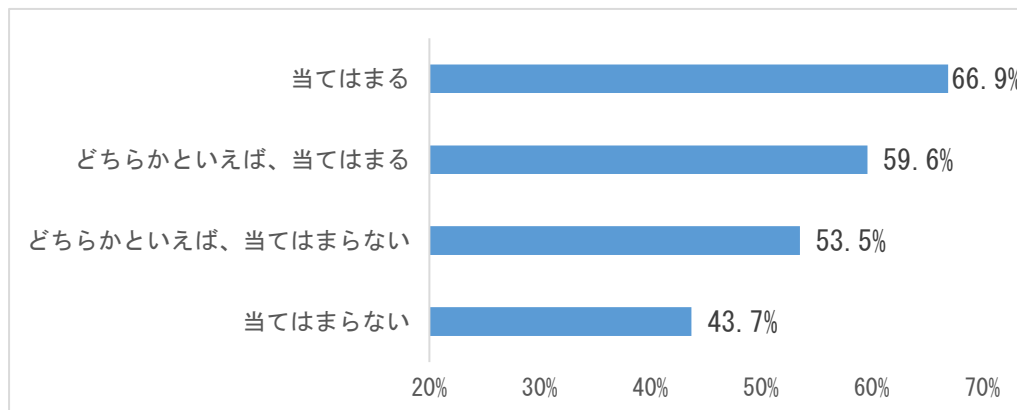
◎表、式、グラフなどを用いて、それらをどのように用いたかについて数学的に説明する活動を充実することが大切である。

【データの活用】

◎二つの集団におけるデータ分布の傾向を比較してその特徴を捉え、数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れることが大切である。

＜クロス集計＞

生徒質問紙調査「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」の質問に対する回答と、数学の正答率とのクロス集計



数学の正答率

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、数学の正答率が高い。解答が求められるだけではなく、思考の過程を説明できるよう指導することが大切である。

(5) 中学校英語【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【聞くこと】

○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる
(大問3)【正答率：市 78.7% (国 76.0%)】

【読むこと】

○日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができる
(大問7)【正答率：市 78.1% (国 72.4%)】

＜正答率が低い問題＞

【聞くこと】

▲日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができる
(大問4)【正答率：市 40.9% (国 43.8%)】

【読むこと】

▲社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができる
(大問10(1))【正答率：市 49.3% (国 47.5%)】

【書くこと】

▲社会的な話題について、短い文章を読み、考えとその理由を書くことができる
(大問10(2))【正答率：市 30.3% (国 27.8%)】

【指導改善のポイント】

【聞くこと】

◎話の最初から最後まで通して聞き、聞き取った情報や、情報と情報との関係、展開を表す表現などから場面の移り変わりを整理させることが大切である。

【読むこと】

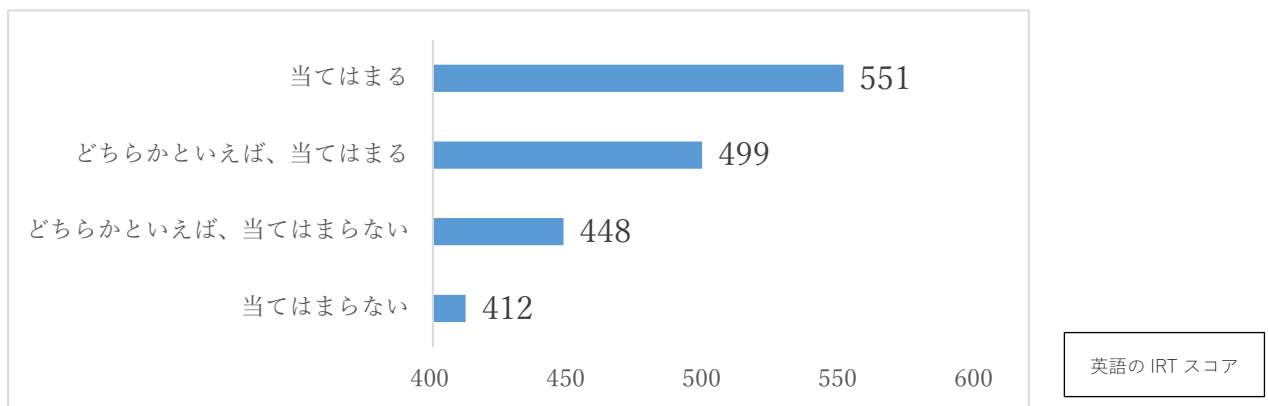
◎文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落の関係などの文章全体の構成を理解することが大切である。

【書くこと】

◎文章を読んで要点を捉え、自分の考えとその理由をキーワードとしてメモなどに整理させた後、自分の考えとその理由を書くことが考えられる。

＜クロス集計＞

生徒質問紙調査「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていましたか」の質問に対する回答と、英語3技能の IRT スコアとのクロス集計



★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、英語3技能の IRT スコアが高い。文章全体を通して読み、文章から取り出した複数の情報を比較することで、どの情報が最も重要であるかを判断できるよう指導することが大切である。